

稜威言別

二

香外書房

和書門		
二 三〇 七七	號	類
一 二四	函	架
六	冊	架

內閣文庫		
二 三〇 七七	號	類
一 二四	函	架
六	冊	架

字學辭源

新刊納本

內閣文庫		
番號	和	23077
冊數	6 (2)	
函號	143	434



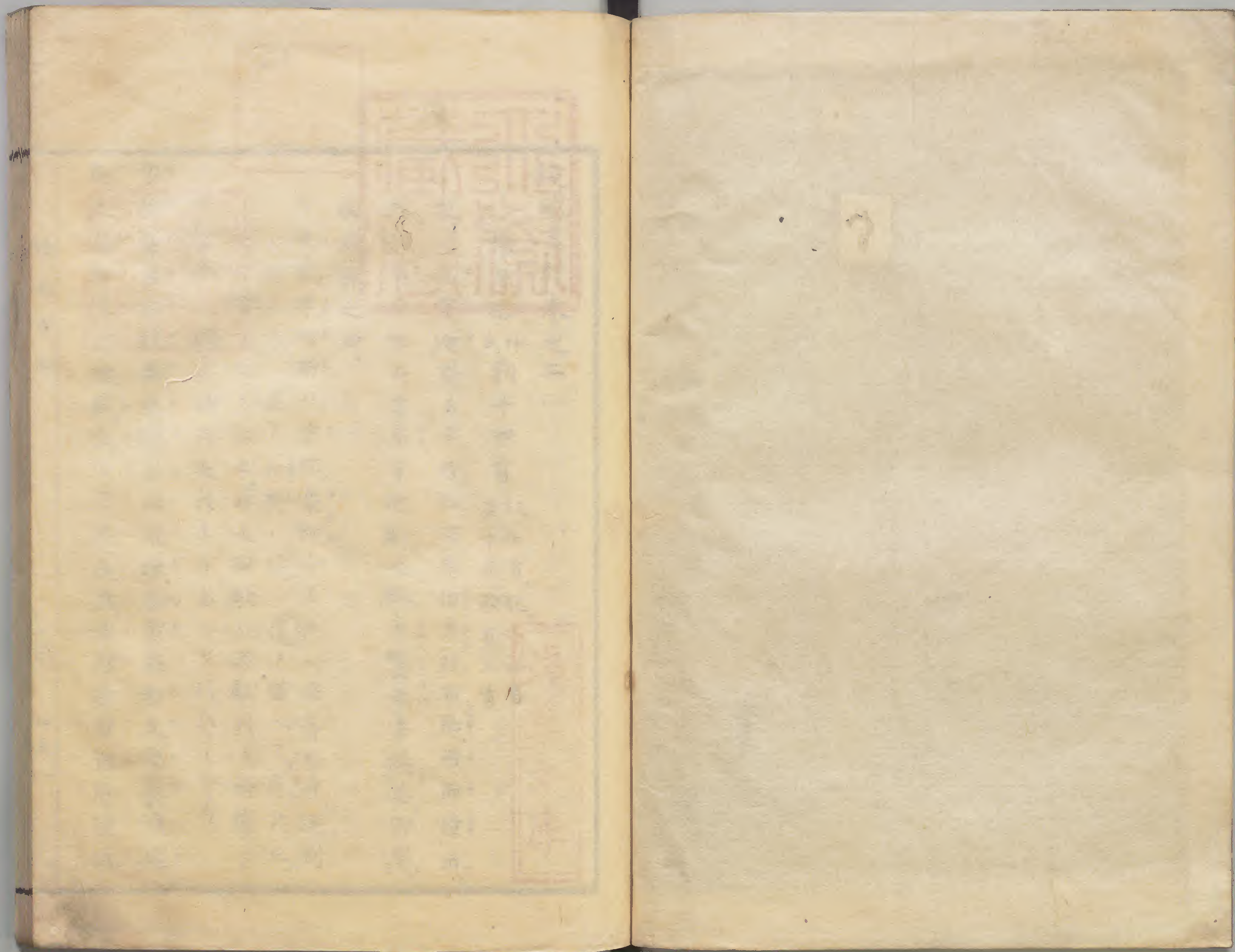
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

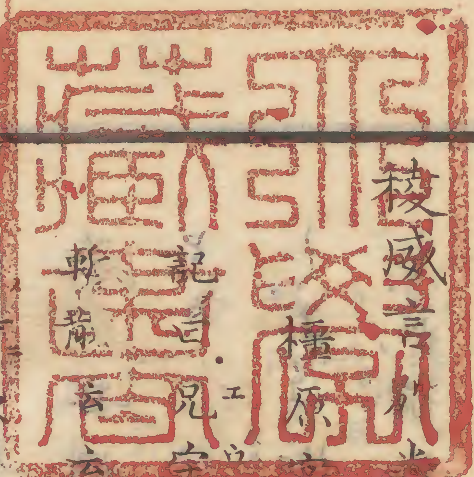
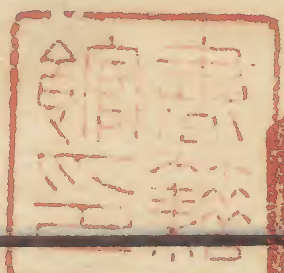
Kodak Gray Scale



Kodak, 2007 TM: Kodak

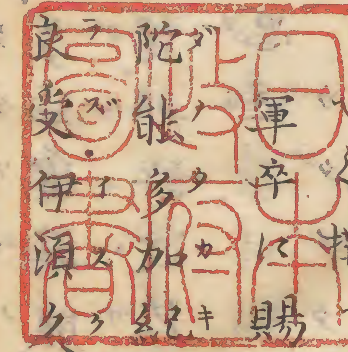




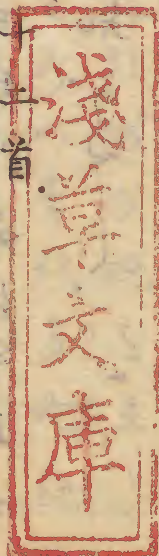


稜威言別 卷之二

夜宇



此時歌之曰
 兄弟宇迦斯
 乃委考置物也
 此大御歌其獻
 爾時御戲
 爾志藝和那波理和賀麻都夜志藝波佐
 伊須
 然其弟宇迦斯之獻
 大饗者志賜其御軍
 武朝十四首
 其中同歌有五首
 紀七首
 記
 有
 見打而死
 雨即控出



稜威言別

二之一

婆多知曾婆能微能（須）那那久表許紀志斐惠（宇波）那
理賀那許波佐婆伊知佐加紀微能意富那久表許紀陀
悲惠（泥）

○宇陀能多加紀尔ハ宇陀之高城尔ナリ。宇陀ハ倭
國、東、山、面也。南ハ吉野山尔連き。東ハ伊勢。伊賀尔隣
島。多加紀ハ多加ハ山の意。紀ハ城。此ハ梟帥
兼ガ要樞と構へて栖々（スミ）故尔然う詔（シ）也。古く紀
と云しハ大なるを宮城と云。小きを稻城と云。如
し。此猶兄弟の栖し山。今何處と知（ら）し。

記傳尔高城ハ山と云と云て。足引城の説を立
る。其、兩をうら非也。下歌尔。みもろのそれ多（カ）紀
那流とあるも。三諸の構、のあり故尔云。又ハ
みのろれ。柁（カ）紀（ナ）儼（ル）とあるも。大宮の構、の有し
ゆえなり。然もなき山と云と云る。やハ
其由ハ。卷七。輕太子御歌、下に云と。名合（レ）ハ
又解尔。此多加紀を。鳴の（ツ）葉（ハ）ハ（レ）田垣（カ）と
せし。其御饗（レ）中（ニ）。鳴の有し。ふつきたれ。御譬
と云。とやと知（ら）し。也。と。然うい。と。鯨と。い
つ。似。け。う。と。や。

○志藝和那波理ハ。鳴（シ）張（ナ）なり。鳴ハ。誰も知（ら）し。鳥
なれハ。今其注畧（リ）。蜀ハ。萬葉十四尔。あしがら（レ）はき
とも。そのもに。佐須和奈乃と。よみて。昔も今も。為（ス）

わるふれハ是も畧ハ名義ハ輪繩のまをふべしと
 て此句を兄獨エウカシが小サ計策ハカリコトふ比ヒへ終ハつる。次と合ヘ
 多タ知チづし和那波流ワナハルの流字ル紀キふも離リとあり古寫本
 ふも理リとありと云へれば改メつ。○和賀麻都夜ハ吾待
 にて和賀ハワカ羅張ワサる人の我ガなり麻都ハ鳴の罹カると
 待マあり夜ハ打ヒや霰センといくや此花コノハなるの夜ヤふて待マや
 鳴と次の句へ續ツくあり。○志藝波佐夜良受ハ鳴者
シギハ不障フサハラなり萬葉五ふ奈尔可佐夜礼留ナニカサヤレルまコ子等コウニ尔佐
 夜利奴ヤリヌなり有アて障サハルと古語コトふ佐夜流サヤルと云其シ佐夜
 流ハ罹カるあり俗物ソクモノに觸フルると佐波留サハルと云に同じ

故佐夜良受と云て罹カるはと云意イになる也解トクふ鳴
 者モノ不刺フサシ依ヨ也と云るを違ヒへる。○伊須イ須ス久ク波ハ斯シハ潜イ魚サナ
クニ細ヒて鯨クジラと呼ヒ出デ枕詞マクノコト也伊佐奈イサナと云コト也コト昔コノの哥カふ
イ苗代水イナヘふある鷺サギの伊佐奈イサナ等ト留ルをコト多タ遊魚ユイサナ比ヒ称ナな
イもたつる里サトの子コとよりるむやと多タ遊魚ユイサナ比ヒ称ナな
イると鯨クジラふ連ツけそりたるを海王ウミノミと云如コトく諸魚モロイサナ中ナカふ
 最名細イサナき大魚オホイサナなれば也細ヒ字ジに心ココロはくづしとて萬
 葉イサナに勇魚ユイサナと書たる勇イサナ字ジハ多タ異舎イサナと云言コトに訓マを
 借カたるのみ也又鯨魚クジラと書たるハ恒トコふ伊須イ須ス久ク波ハ斯シ
 鯨クジラと連ツけ留ルへる枕詞マクノコトと轉ウツりたるは波流ハル比ヒ能ノ
 春日カスガ登夫トブト等利ト乃ノ飛鳥ト比ヒ類ル也鯨クジラと勇魚イサナと云ヒて

ありは。此子諸抄と弁へうてう。既小難語考に出し
ほれば。此は只一わしつ云なり。○古那美賀ハ。婿
之なり。名義ハ。著馴女キナシメ。伎キと古コと通音。米メと美ミと通音
のま也。其ツと神樂カミガク。植ウエふ。和ワ礼レ乎ヲ支キ天テ。不フ多タ川ツ万マン止ト留ル也ヤ
とよし。こし。やうに。古へ妻妾となし。二妻持ツ。世
ふと。萬葉七に。凡オホソノ尔ニ吾レ之シ念オモ者ハ下シタ服ニ而テ穢ナレ尔ニ師シ衣キ乎ヲ取トリ
而テ將キ着メ八ヤ方モ。紅ベニ之ノ深コ染メ乃ノ衣キ乎ヲ下シタ着ニ而テ上ヘ取リ着キ者ハ事コト
將キ成ル鴨カモ十一ト。紅ベニ之ノ深コ染メ乃ノ衣キ乎ヲ下シタ着ニ而テ上ヘ取リ着キ者ハ事コト
仁ニ寶ホ比ヒ將キ出デ鴨カモ。歌カ衣キ霜シロ多タ在リ南ミナミ取リ易カ而シテ着キ者ハ也ヤ君キミ
之ガ面オモ忘ワス而シテ有ム。其ニ妻メと。衣キ比ヒ。多タく

よみ習シりし。故ユ此ノ名ハある也。猶萬葉集中に右の
まマ有ルと。先マ注シ何レ也ヤ。一ハ向ム解ケ得ルがら今マ此ノ古コ那ナ
美ミ宇ウ波ハ那ナ理リのノ名ヲと考ヘてシ。其ノ歌カ等トはシ一ハ時トふ
よく解ケふは。是ト思フふは。古コへシと學ブはんは。さて新
撰ニ字ジ鏡キョウふは。婿ムコ古コ奈ナ弥ミ嫌ハ宇ウ波ハ奈ナ利リとある也。本ホよシの
妻メハ。家イ戸ト主ジをレば。君キミふは。从ナひ。後ノ持チ副ソクするは。兼ニ用ユ
の義ニ以テ。兼ニ从ムる也。此ノも。山ヤマ彦ヒコ冊ソク子シ卷マキふは。委ツく
出デせレば。此ノも。只シ聊シヤウち採ツてシ云ハなり。○那ナ許コ波ハ佐サ婆ハと
魚イサ乞ヒ者ハなり。乞ヒ者ハと。乞ヒ佐サ婆ハと云ハ。問ト者ハと。問ト佐サ婆ハと
云ハか如シ。此ハ世セふ。夫ウツの獵リ漁リふ出デけレば。家イなり。妻メ
子シハ。其ノ獲エ物モノと待マ乞ヒるはなり。ひふ就ツ。如此カ詔ミコトコトふはなり。

魚と那と詔ふも御饗ふ就て御詞也其冬恒
 ふけ宇乎と云と釣と云と魚釣と云と猪も常ハ章と
 云と獵の時ハ斯々と云と鹿とも兼しウ春草也恒
 冬和加久佐と云と食料の時ハ和迦那と云と常
 加多那能古と云と食料の時冬多加米那後世多加
 加宇那なと云と云例のおやしし。○多知曾婆能冬
 冬音便ありと云と立孤棧之ふて實と云ん枕詞也多知ハ木立立木な
 立孤棧之ふて實と云ん枕詞也多知ハ木立立木な
 宇云立ふて植て立有と云ま宇惠具佐命陵歌
 殖木植竹殖子水葱蕙葉宇やある宇惠も人の植
 宇よしは冬非と云と植て立てあると云なれば此

多知と其意同じ曾婆ハ和名抄云唐韻云孤棧木名
 也又四方木也和名曾波乃木とあり是也但説文云
 孤棧也徐鍇字解云字書三棧為孤音姑廣韻云棧四
 方木也と注して本木の榜の字をれバ其木の名云
 冬ありとれと此木漢名尔鬼箭と書字の如くふ箭
 に似し皮れ幹も枝にも付て稜のあり米り
 うに姑く孤棧字ハ當たる也仁徳紀云柳素磨能
 紀とありも箭孤棧の意と聞る冬此同木なり
 枕冊子木ハと云る中にそをれ本はしなりき心
 ちとれど花の木ともちりてておしなるる
 緑ふありたる中に時もわうん濃き紅葉のほり

先きて思ひがらぬ青葉の中よりさし出さるる
ほろしと云ふかくらうらひさき木なりけれは
の俗より錦木と云ふ又矢筈とも云ふ彼箭羽
ふ似しるより云名也さして板ある物と曾婆と云
るこぞ多うと蓋麥と云し幹實ともふ稜ある故
也四方木か隅楞はくるとも曾波を取と云ふ岨
も岩角乃嶮いさ処なるより云又物語書はそは
そはしと云ふも倚依きのあしうらすのぞく
しねふし也即彼枕冊子にもしうれきくちり
れどと云るハ此そはくしと云名れもしうらす
一の戯れなり又目とそは立つると云ふ目角と立
けりふなりししこれふ用なきふうらう學
ひの爲ふとして言のほいひにひるす也
かくて此木甚小細なる赤き實成るとも次の松ふ

對て實の少き序ふ取出れはしにこそ○微能須那
祁久亥ハ上よりこの連きハ實と受て言の意ハ肉之
少乎なり此句今本須字なきと年来須字落しん
と思ひぬりけり須字ある本ありときて補
り少きと須那伎と云ハ倭名鈔ハ少納言須奈伊
毛乃万宇之ま少辨須奈伊於保止毛比とある此
等此須奈伊ハ須奈伎也少乃音便なりを以て知べし
きて祁久ハ久と約る祁伎ハ伎と約ると古言ふを
通し云記傳ハ微能此二言と上句ハ屬て上と
十言此句と四言としる其調のあらきのみれ

ろび。枕詞の例ふ違へど。○許コキ紀志シ斐ヒ惠エ泥ネハ。扱コキ之シ捍ヒ
 ぬふて。彼ミ肉ノ之スナ少ク骨クうラれ處トと。扱コキてハ肅ハキ取トと云
 ちり。許コキ紀キハ。萬マン葉エフハハ。袖ツデニ古コ寸キ入ツ津ツ十シ八ハチハ。多タ麻マ古コ
 伎キ之シ伎キ互テちウと。多タくクよヨめメるル扱コキ也ト。稿コウとト云クと云クも同
 じ。志シハ。助ジュ諱ヒ悲ヒ惠エハ。字ジ鏡キョウハ。梭サ捍ヒ肅ハキ等トウの字ジと訓クて。肉
 とそぎ取ルるルやちり。即チ今イマの言コトふ閑ハ具グと云クるル也ト。比ヒ惠エ
 具グの約ヤクと。比ヒ惠エハ。閑ハ又マタ惠エ具グ留ルと云クも。捍ヒ鏤ロウの上ノ畧リョクを
 るべし。竹チク刀タウと。今イマ閑ハ良ラと云クも。比ヒ惠エ良ラの約ヤクれルるルハ。
 上の比ヒ惠エ具グ比ヒ例レイの如ニし。私シ記キハ。竹チク刀タウを。阿ア乎フ比ヒ衣エと
 言クれル也トハ。斐ヒハ。屠ラるル。減ヘンけルるル云ク。波ハ閑ハ通トウ以ヒ惠エハ。割カ

了。折ヲるル等トウの。和ワ衰ソイハ。通トウへル。以ヒ下カ。准クニ知チべし。泥ネハ。云ク
 云ク為シと。令オホと。辭ジちり。

此コノあリるル諸シヨ注チヨひケけル解ゲ得トクハ。抄セウハ。未ミ詳シヨウと云クれルハ。
 撰セン文ブンをシ賀カ茂モ氏シ説セツにキ無ム久ク乎フとシてハ此コノ句クとシてハ幾キ許ダ
 捍ヒね也と云クるル也ト。理リと云クるル也ト。狀キョウと云クるル也ト。次ジの多タ久ク
 なるルばらるル也ト。然シカもシ云クるル也ト。肉ニクの無ム久ク乎フにキ幾キ許ダ捍ヒ
 と。ハ。うウでウ云クんニ。此コノ説セツハ。通トウと云クるル也ト。又マタ記キ傳デンハ。那ナ
 那ナ久ク表ヒヤウハ。長チヨウ也ト。なナらズんニ。序シヨの曾ソウ婆ハもシ今イマ何ナニ木キとシてハ慥チヤウ
 ふフと知チるル也ト。其シ實ジツもシ如何ニカなるル也ト。形ケイ其シ物モノ也ト。姑コと
 知チるル也ト。此コノ句クとシてハ長チヨウけルと云クるル也ト。彼カノ實ジツと云クるル也ト。姑コと
 形ケイの長チヨウき物モノと云クるル也ト。長チヨウき物モノと云クるル也ト。序シヨと云クるル也ト。長チヨウき
 也ト。鯨キョウの肉ニク比ヒ長チヨウく切キるル也ト。と云クるル也ト。上ウヘと云クるル也ト。不フ審シン
 々ツツれル。鬼キ箭センハ。上ウヘと云クるル也ト。如ニ云クるル也ト。彼カノ小コ細サイなるル也ト。

實を此人見知りや有らん。此説ハ凡て并んまで
色あり。次ふ許紀志ハ下の許紀院と同言ふて延佳が樂
許と注せるを宜しき其ハ萬葉云云上とて多
く引ふれど凡彼集に幾許ふを己伎太久己伎婆
久許己婆己許太曾己良久曾許婆曾伎太久ちや
あまんど許紀志と云る。一しありと強て幾
許ふ引へし私事と云べし。

○宇波那理賀ハ嫌之なり名義ハ上の着馴女の條
ふ引し萬葉歌等に據る彼下ふ著し衣本の上ふ今
一重かゝね著る心ふて上ぬハ且妻の略うらに
はそちらん和名鈔云前夫之太子後夫宇波矢とあ

る。此上夫下夫の稱ふ准ふべし。かくて此古那美宇
波那理がう檜垣集又大和物語等に一人の男がこ
うふとうもゆりとと率て来しう出るとして現
在なる妻等の稱なるをさるべし。○伊知佐迦紀
ハ最榮樹なり其木ハ和名抄云檜漢語抄比佐加木
とある是也。比佐加木ハ實榮木に轉みて赤黒く紫
けみしる實れ多く成ゆ急ふ云。即今俗云昆者加紀
や呼なるも實榮木と訛をすにて世に然ら呼むら
る。實の多き木ならう。次の御句の連けハある也。
かくて其と最榮木としも詔いしハ此木隱足

ふ圓うに繁りて其形も人ももつらき女なりけ
とば賢木の種類多きか申に。最^{イナ}る名ハ。負^{イナ}しな
るべし。最^{イナ}流^{イナ}とある。大御歌の下に云ひし。次^{イナ}り御歌
ふ合せて思ふに此等の木ども。設けてふいあ
て其御時其處の山に生てあると。所見^{ミツナハシ}行しあはに
けりけりせぬいしにこそ。○微能^{ミノ}意富^{イホ}祁久^ケ哀^クハ。肉^ニ
之多^{ノホクダラ}乎^ヲよて。上^ミ此^ニ微能^{ミノ}須那^{スナ}祁久^ケ哀^クハ。肉^ニ
以上二段の御調よ。當昔^{ツノカミ}の代^ニよして。奇^{オモ}きまても。
人情^ニを盡しぬいしうれ。其^ツハ。婿^{コナシ}も。肉^ニの少^{オホ}き處^ヲと
押^ヒよ。嫌^{ウナリ}ふは。肉^ニの多^{オホ}き處^ヲと押^ヒよ。と。二妻^ニあるる男

お心中誰も嫌^{ウナリ}れいぞ知しまは。まは。本^{コナシ}つ婿^{コナシ}の
あきよく。憎^{ウナリ}くなも。大方^{オホ}此^ニ世^ノの人情^ヲ。了^スこやにそこ
有^アるれ。ちやく此^ニ御代^ノよして。如^{カク}斯^クまても。人情^ヲよ
通^トどもせぬ。神^ニと。神^ニと。申^スは。し。か。る。御^ノ戲^ヲ
ども。此^ニ御時^ノ軍旅^ノの人^トと。慰^ナむ。は。ん。と。て。な。る。
が。う。し。初^{ハジメ}國^ノ所^ノ治^メ行^ハの御器^ヲ。此^ニ御詞^ノよ。顯^ハれ。う。仰^ス
くべし。貴^キぶべし。

是^{コト}ま^ニび。先^マ註^シ何^ニも。ま^ニぶ。し。く。て。然^カる。を。味^ミと。ま^ニす。
去^クる。人^ヲ。絶^スて。あ^らう。ご^うつ。る。ふ。時^ノの。ゆ^えに。れ。ハ。神^ノ語^ヲ
の。妙^{カホ}れ。と。し。り。て。顯^ハれ。る。り。た。る。快^クき。ら。も。う。れ
し。き。ら。も。と。て。如^{カク}此^ノま^ニら。心^ヲに。け。て。按^スふ。彼^ノ許^ノ紀^ヲ

志の志ハ。見為遊為謠為シ。志ハして。扱為の
意と又むシ。へきう。む人定むへし。

○許紀陀悲惠涯ハ。獎許コキカヒ押ヒねふて。是ハあまヒ。押取

と。詔ふ也。解ふ。上の許紀志と。扱コキと又ヒ。ハヒ。くれ

とし。強惠シヒ祿ヒと釋して。此句とし。扱コキ而給惠祿也と云

。其釋言通キらヒし。

○一編の大意ハ。此ヒ。兄エウ猶カシが。押オシ機張シラて捕んとせ

。其シ。小コ計策ケイサクと。此ヒ。獻ケンれた御者の。鴨カモと鯨クジラを以て。

比ヒ。喻ユいと。此ヒ。宇陀山ウダヤマ。城シロハ。鴨カモを取んとて。羅ラと張テて。

羅ラ。うウて。羅主ラヌシ。兄エウが待居マテイる。其待マテ鴨カモハ。羅ラらヒし。

て。思シ。設セけぬ皇軍スミカミの。大オホを鯨クジラしシ。もモ。くク。ぞゾよ。

世セハ。漁夫イサヒコの。妻メ子コ等ナが。魚イサを待マテ乞ヒらんやうに。汝ニ等ナ皇軍

各オノオノ持モらん。二ニ妻メの。若ニ待マテ乞ヒは。汝ニが持モふルして。今イマハ

厭イヤくク。ふフくク。なナれレらん。婿ムコふフ。肉ニクの少オホき。骨ハネ殻カの。処トコロ

と扱コキくク。せセよ。又マタ己ニが。下シモ情ナふ。先マをシ。勞イロしシと思シん

嫌ウハふフ。肉ニクの饒オホうウ。処トコロとハ。あアまマ。取テせセよや。可ア笑ハいハいハ。

若ニ者の心ココロ。これふたがハ。と。戯ウソれレせ。孫ムコふフ。皇

軍イクサも。一ヒト回マヒふ。笑ウツひヒて。其ソノ笑ウツひヒと。次ツギ。文フミは移ウツせるナリ。

疊エ々エ。志シ夜ヤ胡コ志シ夜ヤ。此コ者ハ伊イ基キ能ノ布フ曾ソウ阿ア々ア。志シ夜ヤ胡コ志シ夜ヤ。

此コ者ハ嘲アザ咲ワラフ者ナリ也ナリ。

此來目舞、難と記せるなり。其本ハ右の大御歌
乃、笑いと受て、終ふ彼、兄宇迦斯、己が張る、
ふ、己と見し押して、死る、状と、皇軍の衆の、言又笑ひ
し遺風なり、とれ、此語ハ本ト。

盈々志夜胡志夜阿々志夜胡志夜盈々志夜胡志夜
此者伊碁能布者也阿々志夜胡志夜此者嘲笑者也

如此有けるを畧る。又同言此重れ、ハ初、十四
字と見漏し、しるにも有し。又後、盈々を、畧る
ふ誤る者也。曾ふ誤るを、草書、跡の、互ふ近
き故なり。し、とて、盈々、今、世、ふて、延、其、見
悪、と、よ、なく、云、是、也、志、夜、ハ、者、小、釋、成、な、云、是、也、
又、俚、言、に、志、伊、悔、伊、など、云、志、伊、也、此、志、夜、の、音、便、
也、胡、志、夜、ハ、表、胡、志、夜、の、上、畧、ふ、て、表、胡、ハ、表、胡、人、

表胡賀万志なり。表胡ふて、其、胡と、加、ふ、搏、ト、て、
可笑とけ云なり。阿々ハ、今も笑、色、なり。伊碁能布
と、人、と、詈、て、伊、賀、と、云、と、延、て、伊、碁、能、布、と、ハ、云、也、
賦、の、物、と、出、れ、と、都、久、能、布、と、云、類、也、此、大、御、歌、紀、
記、全、同、ト。

紀曰、冬十月癸巳朔、天皇嘗其嚴寃之粮、勒兵而出、先
擊八十梟帥於國、見丘破斬之、是役也、天皇志存必克
乃為御謠之曰、

此、前、文、ハ、紀、の、潤、色、也、凡、て、紀、記、中、に、梟、帥、土、蜘蛛、
と、擊、こ、ゆ、の、多、く、出、る、に、二、の、所、以、あり、一、ツ、ハ、孝、
德、天、智、朝、の、史、生、等、が、異、國、王、に、征、伐、風、に、翻、譯、せ

し餘殘也。ニハ後の御代より来目舞、唱歌に作らるる
たる歌ふ能て、文と設けし也。今此大御歌ハ長
髓彦と撃んと所念行々、時の御製より即ち記
尔、將撃登美毘古之時、歌曰とあるハ、違ハズ、國見
丘、泉帥がうハ、設けし文也。道別み出。

伽牟伽筮能伊齊能于游能於費異之珥異波臂茂等倍
屢之多儂游能之多儂游能阿誤豫阿誤豫之多太游能
異波比茂等倍離于智互之夜莽務于智互之夜莽務

○伽牟伽筮能ハ、神風之ふて、伊勢と云ん枕詞なり。
此連きふ能て、左右ハ、此大御歌ハ如此賦せ給
ふハ、ハ、神代より由縁ありけるハ、仙覺萬葉抄云

引る風土記云、伊勢國者云云、有神名曰伊勢津彦云
云、比及中夜大風四起、扇舉波瀾、光曜如日、陸海與朗

遂乘波而東焉、倭姬命、世記云、豊葦原、瑞穗國之
内、伊勢加佐波夜國、云云、なとあると以て知へ

し、又其國ハ、風、神鎮坐て、靈驗新たり、此、神いけり
と誰うハ、是ハ、彼、天武天皇、御時の神風、又蒙
古う襲し、時の神風等と相合せて、上代とも思ふや

冠辞考よハ、神風の息と云へきと、伊の一、言ふ云、
係、也、と云、れど、右ハ、引、書等に叶ハズ、其、上、神、
御息、風と、神風の息と強ふるも、作らざるなり、記

傳ハ其説と承テ契沖況と雖ト云契沖が萬葉
ニナリ渡會乃齋宮從神風亦伊吹慈之とありと
引て云るハ非なり神武御時大御神ハいまざ伊
勢ふを坐すを也と云今按ふ彼阿耨梨其時
代と知ぬ人ふを非は彼風速國や名ふ負來し准
以ふ引る也其上天照大御神と凡神とハ本より
別なりハ其神のほり彼國に鎮坐んんとも知
へきふありとといふうき難いなり也

○伊勢能于湊能ハ伊勢之海之なり○於費異之珥
之於大石なり今本珥下ふ夜字あり一本の無に從
ふ傳云伊勢國度會郡贄浦と云浦十町許海中ふ此
大石ありて其石ふ細螺多く著りて此るハ天明

三年冬荒木田久老自彼浦ふるうりてと
わくは是に解云上其贄浦ハ紀伊國熊野の錦浦ふい
や近し其贄浦より東北ふ慥良と云郷あり此
邊の山より大和國吉野へ越る古道ありとき々
これや天皇れ背ふ日と負て内津國ふ入坐し道な
るべけれハ熊野神邑より丹敷浦贄浦慥良と経路
て親く所着行し石の状ハ此時まで大御目ふ付
るしう所念出て此路也上と云今按ふ
天皇此時ハ四方の國體と御覽りての東遷なり
されハ實に彼浦々までも巡らしぬんれど

宇智郡より入坐^ニと名^ハ御船な^ハり紀伊國
へ還らせ給ひて待乳山より入らせ給ひし也。
伊勢よりなり^ハ宇陀山が順路なれど^ハ紀
ふ叶ハ^ハ伊勢より吉野山と超て大和み^ハん
たも安き道ふ^ハり近來の學者此地理と心得
ち^ハいせ^ハる^ハ萬葉歌ふ委く弁へは。
○異波^{イハ}臂^ヒ茂等倍^{モトホリ}屢^ルハ異^イハ發語^ハて延^ハ回^{モトホリ}なり其^モ茂
等倍^{トホリ}屢^ルハ廻繞^{メグル}の古言^ハふて即^メ米^メ具^メ流^ルの米^メと茂^モふ轉
して活用^{ハタラカ}したる詞^ハなり萬葉に鶉^{ウツラナス}成^ス伊波^{イハ}比^ヒ廻^{モトホリ}ま^ハ
大殿^{コノモトホリ}之^ハ此^ハ田^ハ之^ハなり^ハ多く^ハなり今言^ハに舌^{シタ}の^ハなり^ハ
ぬと云も兒^コなり^ハの舌^{シタ}の^ハ廻^{メグル}ぬと云^ハなり^ハ又^ハ此^ハ茂^{モト}等^{ホリ}

倍^{ホリ}理^リと云^ハに多^タの發語^ハと置^テ多^タ茂^{モト}等^{ホリ}倍^{ホリ}利^リと云^ハるも
其處^ハを廻^メ來^キしと^ハなれ^ハ徘徊^ハ字^ハと書^ケる○之^ハ多^シ儂^タ滋^シ
能^ノハ細^シ螺^シ之^ハなり和名抄^ハふ崔^シ禹^ウ錫^シ食^シ經^キ云^ハ小^シ嬴^ウ子^シ顔^ウ
似^テ甲^カ嬴^ウ而^{シテ}細^シ小^コ口^コ有^リ白^シ玉^ウ蓋^カ者^{ナリ}也漢語抄^ハ云^ハ細^シ螺^シ之^ハ太^タ
美^ミとあり其^ハ玉^ウ蓋^カハ今俗^ヨふ醋^ス貝^ヒと云^ハ物^{ナリ}也曾^{ソウ}槃^{パン}昆^{コン}
虫^{ムシ}改^カ云^ハ此^ハ貝^ヒハ榮^エ螺^シム似^テ細^シ小^コ也扁^{ヒラタ}く扁^{ヒラタ}螺^シイ^ハりや
大^{オホ}也紀伊^ハふて鳳^{ホウ}皇^ウ貝^ヒと云^ハる伊豆^ハ八^{ハチ}丈^{サツ}嶋^トふて之^ハ太^タ
美^ミと云^ハ物^{ナリ}ハ磯^{イソ}貝^ヒにて石^{イシ}磷^{リン}也其^ハ形^ハハ稍^ヤ異^ナなり^ハど
も古名^ハの傳^ハハる^ハなり^ハ免^ヒて^ハし石^{イシ}亦^モ著^シて玉^ウ蓋^カの
間^マより舌^{シタ}と横^{ヨコ}ふ出^デは^ハり^ハ以^テ舌^{シタ}曲^{カマ}と云^ハりとい^ハへる

○之多ニタ儂バ游ミ能ノ上ノと承テ重ネくリ○阿ア誤ゴ豫ヨこコこ
ハ。吾ア子ゴよ。吾ア子ゴよナリ。従スふ者トも云ハハ。親シ少クナリ。
萬葉十九ふ遣唐使と指テ。此コノ吾ア子ゴ韓カラ國クニ邊ニ遣ハル
此コノ皇軍と指テ也。○之多ニタ儂バ游ミ能ノ是レ之ノ御ミコト句コト等ト
のミま。賊と伐ルふ時ノ御ミコト詞コトとを聞クらハ此コノハ彼伊
勢海御遊覽の御時諸軍士等此コノ彼レふあクづれ
ると。今を還リ坐シんとシ。召シ給フ時ノ御ミコト歌カときキこノ。
同ト言ハと幾イッ回タビも返シ給フて。事ノ切キぢキらハまニ聞クゆ
ると。例ノ御ミコト戲シ也。其ハ彼長髓彦ノがハ此コノ後倭へ
還幸ありて後も。頓トふ伐ルんとシも為シ給フらハ吉野ふ遊ブ

覽ハシ國見岳ノ眺望ヲ望ミなシ坐シて。多クへテ甚イ寛クやウふ所オモ
念ウシのウらハあハらハまニ。彼レと何ニぢキらハの敵ヲうハ。為シ
給フべき。此御歌の應トも。處ニ一處モあハらハぬハナリ。
○于智ウチ豆マメ之夜ノ暮ム務ムこトハ。擊ウチ手テ而シテ將ム止ムふテ之レハ助ス辞ジ。
將ム止ムハ。將ム果ダケと云ハんが如シ。
○一首のまハ。此伊勢海のウらハあハらハ大石ふ延ハ繞ルれ
る細螺シメと来テ包ムや。あハらハかシてハあハらハづれ遊ブべ
は。吾子よ。吾子よ。此コノまハみレいハらハ繞ルれル如ク。
はやく倭へ還リて。彼長髓ノを取リ圍ミて。伐ル果トとシ。
と謠ハせ給フハ。あハらハまニり時トとシせル軍士等と。召シ

て。率^チてよせ終^ハんととよ。諸注^{ナツ}注^リり。此大御歌。
記ふ^カ加^カ年^カ加^ゼ是^ノ能^イ伊^モ勢^ノ能^ウ宇^ミ美^ノ能^オ意^ヒ斐^シ志^ニ尔^ハ波^ハ比^モ
登^ト富^ホ呂^ロ布^フ志^シ多^タ陀^イ美^ミ能^ノ伊^イ波^ハ比^ヒ母^モ登^ト富^ホ理^リ宇^ウ知^チ互^テ志^シ夜^ア
麻^マ牟^ムとある^ル也。後^ノみ省^ミき約^クて。くくくしなり。

紀曰。道臣命^{ミチノミコノミコト}於是奉^ヲ密^ニ旨^ヲ掘^テ窹^テ於^ニ忍^ニ坂^ニ而^ニ選^テ我^ニ猛^ニ卒^ヲ與^ト
虜^ヲ雜^シ居^ル陰^ニ期^ニ之^ヲ曰^ク酒^ヲ酣^シ之^後吾^ハ則^チ起^リ歌^フ汝^ハ等^ハ聞^ク吾^ハ歌^ハ色^ヲ
則^チ一^ニ時^ニ刺^シ虜^ヲ云^フ道^ノ臣^ノ命^ヲ乃^チ起^リ而^シ歌^フ之^ヲ曰^ク
此^ハ前^ノ文^ノ例^ノ潤^シ色^{ナリ}なり。此^ハ歌^ハハ。忍^ノ坂^ニ窹^テに。梟^ノ帥^ト
等^ノのよと集^ムふとききして。勇^ミみ健^ムいてくくくへる歌
やききくゆ。

於^オ佐^サ箇^カ迺^ノ於^オ朋^ホ務^ム露^ロ夜^ヤ珥^ニ比^ヒ苔^ト瑳^サ破^ハ而^ニ異^イ離^リ烏^ウ利^リ苔^ト毛^モ比^ヒ
苔^ト瑳^サ破^ハ而^ニ枳^キ伊^イ離^リ烏^ウ利^リ苔^ト毛^モ弥^ミ都^ツ弥^ミ都^ツ志^シ俱^ク梅^メ能^ノ固^コ邏^ラ餓^ガ
句^ク驚^ア都^ツ々^々伊^イ異^イ志^シ都^ツ々^々伊^イ毛^モ智^チ于^ウ智^チ互^テ之^ヲ夜^ヤ莽^マ務^ム
○於^オ佐^サ箇^カ迺^ノ忍^ニ坂^ニ之^ヲ乃^チ大^ニ和^ニ國^ニ城^ニ上^ニ郡^ニふて。今^ハも

忍^ニ坂^ニ村^ニあり。此^ハ村^ノの山^ニ懷^クふ。窹^テの趾^ヲ遺^レれり。と云^フ。○
於^オ朋^ホ務^ム露^ロ夜^ヤ珥^ニ大^ニ室^ニ屋^ニ尔^ニなり。大^ニ室^ニとハ。窹^テと云^フ。山^ニ
懷^クへ。横^ニふ掘^リ入^リたる地^ニ室^也。字典^ニふ。窹^テ地^也。○比^ヒ苔^ト瑳^サ破^ハ
而^ニハ。人^ト多^クふなり。比^ヒ苔^トハ。梟^ノ帥^ト等^ト指^シ瑳^サ破^ハと云^フ言^ハ
のま^ハ。真^ニ安^ニ幡^ハの中^ニ畧^ルふや。多^クきくやと。安^ニ波^ハと云^フ
也。萬^ニ葉^ニ二^ニふ。零^ル雪^ニ者^ハ安^ニ幡^ハ尔^ニ勿^ク落^ク云^フ云^フ。古^ノ今^ノ集^ムふ。雲^ノの

あはふつなとくろ。是也。○異離鳥利苔毛ハ。雖入
居ふ。彼穴室中ふ。集居ともと云也。○比登瑤
破而ハ。例の上と承て。調心と助了也。○枳伊離鳥利
苔毛ハ。雖来入居なり。是も枳の一言を加へて。調心の
為ふ。重ね云也。○涿都志。俱梅能固邏餓ハ。御稜
威御稜威しき。来目子等之ふ。其来目ハ。皇軍衆と
云。故ふ。御稜威とを置了也。道臣命。其来目部と帥
ハ。大伴ふを以て。大伴と稱へ。又主掌路ふを
と以て。大来目主命とも申し。也。萬葉十八家持御
歌ふ。大伴能遠都神祖乃。其名乎婆。大来目主登於比

母知互都加倍之官云とくろ。と以ても知べし。
猶此冠緯の。又来目部ハ。組部の義なり。既ふ難
語考中卷ふ。舟へはれハ。見合れべし。○句務都伊
異志都。伊毛智。此二句甚難うれハ。衆説を擧て。後
ふ。試ハ云べし。抄云。頭槌石槌持ふ。都知の知を延
て。都伊と云なり。日本紀私記曰。頭槌名。其頭曲と
ち。抄。傳云。纂疏。頭槌者。劔首如槌也。今集人所
帶之劔。有此形也。とある如く。劔の頭石ふ。槌の形
ふ似。くろ。くろ。くろ。形の石。大和國の三輪山の邊
乃出中。くろ。掘出。くろ。と云と。くろ。と。谷川氏云に。

已上 傳 解云。石槌と云て。劔とも。大刀ともなきを。本石
以て造れり。槌おろし。北國より掘出し。雷槌と
稱す。の。太古の頭槌の残りもれふやうに。解
らんと云ふ。今按ふ。石以て造るも。物ふくそ。れ。劔を
その兵器も。折せ安くして。戦ふに堪べう。又
石ふてハ。記ふ。頭槌之大刀。紀ふ。頭槌劔も。時陳其
屍而斬之。俱抜其頭椎劔。一時殺虜。なきありに
合ハレ。抑皇朝ハ。神代より十握。九握。八握。劔尾羽張
都牟刈。大葉苜。神戸。鹿正。其外もゆく。名細劔と。あま
し傳へて。其時にも。針し。られ。る。布田社の

神寶のついで。一き。以て。思ふべし。舊事紀崇神
國幸乃。河上宮。作大刀。名曰。赤花之伴。况や。此御
今藏。石上。神宝とあり。た。く。ひ。とも。思へ。下。長髓
時の兵器ハ。皆。天より。御賚の品なり。こ。下。長髓
彦。天皇の天羽。矢。步鞞と。名。甚く。懼れ。る。以
て。ち。ら。は。凡。此。等。を。以て。此。二。句。を。考。る。ふ。此。と。頭。津
鍊。石。津。鍊。と。稱。て。大。刀。と。省。る。た。う。ん。頭。と。名。鏑。兼。株
等。と。云。如。く。太。く。嚴。重。き。を。れ。稱。辞。石。ハ。石。座。石。鞞。等
の。石。と。同。し。く。堅。固。な。り。稱。辞。ふ。て。太。く。重。し。く。堅。固
き。劔。也。云。こ。と。二。句。ふ。分。て。連。け。云。と。聞。ゆ。猶。彼。天
鹿兒。弓。鹿兒。矢。な。と。云。る。鹿兒。も。岩。根。凝。之。と。云。と。同

し祢、辞なき。道別ふ委く并へたる。あはれに合せて
知し。又下の忍熊王、歌ふ。于知能阿曾、餓、旬夫、菟智
能、伊多豆、於破孺、破と、み、み、み、と、名、れ、ハ、武、内、宿
祢も、太、重、き、大、刀、と、佩、り、て、世、ふ、内、阿、曾、が、頭、津、鍊、と
て、名、高、う、り、し、け、り、此、等、に、合、せ、て、石、ふ、あ、り、し、け、り
し、と、知、し。○于智豆之夜、莽、務、此、句、既、出、ッ
○一首のそと、忍坂の大室屋に、土雲、泉、脚、等、う、多、ふ
へ、居、と、告、う、ら、が、た、と、ん、何、れ、ど、多、く、入、居、と、も、未、入
り、と、も、如、此、御、稜、威、と、と、し、き、吾、来、目、部、等、ふ、世
ふ、名、高、う、ら、太、く、嚴、重、き、劔、と、持、て、擊、果、し、て、ん、と、勇

り、る、ぢ、り、記、ふ、を、于、智、豆、之、夜、麻、務、下、ふ、美、都、美、都、斯、
久、米、能、古、良、賀、久、夫、都、々、伊、伊、斯、都、伊、母、知、伊、麻、宇
多、婆、余、良、斯、と、あ、り、余、良、斯、ハ、吉、ら、し、け、り、

紀左文云、時我卒聞歌、俱拔其頭椎、劔一時殺、屬々無復
噍類者、皇軍大悦、仰天而咲、因歌之曰、伊莽波、豫伊莽
波、豫阿々、時夜鳩、伊莽儂、而毛阿、誤、豫、伊莽儂、而毛阿
誤、豫、今、来、目、部、歌、而、後、大、晒、是、其、縁、也、

此左文云、又謬れり、こゝを歌ふを、あ、り、け、り、上、文、ふ、盈
々、志、夜、胡、志、夜、云、云、と、あ、り、類、ふ、て、其、斬、る、状、と、
傍、り、り、て、又、つ、詞、也、即、歌、而、後、と、ハ、上、歌、と、ら、し、
ひ、て、後、也、大、晒、と、云、此、詞、の、事、也、是、實、ハ、来、目、舞、の

俳優より移れるなり。されど小注ハ加ふべし。○阿伊菴波豫伊菴波豫ハ。汝者ハ汝者ナリ。○阿伊菴波ハ上の離詞。阿ハ志夜胡志夜トある。○因言ハ。阿ハ嘲笑也。時夜ハ今昔物語。志夜類ハ猿ふ似て。ト云る。志夜ハ。詈詞。鳩ハ。与の意也。○伊菴儂而毛ハ。汝ハ。汝ハ。汝ハ。汝ハ。と云んが如し。○阿誤豫ハ。此を。拍子にそへたるふて。催馬樂に。麻之とそへたる類ハ。諸抄。若ふ。歌とし。言と調。と思ハ。以て。文に流るなり。

又歌之曰。○愛溺詩鳥。蝦夷乎。諸抄。此。蝦夷と。多。賤り。愛溺詩鳥。毗儂利毛々。那比苔。苔比苔。破易倍。廻毛。多年。

伽比毛勢儒。

○愛溺詩鳥ハ。蝦夷乎なり。諸抄。此。蝦夷と。多。賤り。て云とのみ思へるを。本末違へ。此御時。未。陸奥の蝦夷と。知べきに。此名ハ。土雲と云。本也。其ハ穴ふ。棲もの。を。獸ふ。近う。故ふ。自然。身に毛。生。鬚。長く。延て。蝦ふ。似。其名義を。蝦賤と云。なり。り。る。て。ほふ。陸奥の蝦夷。穴。棲ふ。毛。多く。生。て。あれハ。甚。と。云。に。これ。ハ。山。彦。丹子。二。巻。ふ。出し。つ。れ。ハ。此。ハ。採。て。云。也。○毗儂利。毛。々。那。比。苔。々。ハ。一。人。百。之。人。ナ。り。皇。極。紀。云。軍。中。之。

人相謂之曰一人當千とある。其と同意也。さして一人
 を既償利と云ハ。二人三人と。布多利美多利と云ら
 如し。毛ハ那比苔ハ。連吸之門乃。那の類也。下の苔と
 一本に依て補へり。○比苔破易倍廻毛ハ。人者雖言
 かり。○多年伽比毛勢儒ハ。手向毛不為也。是ハ其斬
 の中ふて一人が
 ちみしりちり。
 ○一首の毛ハ。土蜘蛛臬帥が黨ハ。力猛て。世人其蝦夷
 一人をば常の人。百人ふ當ふといへども。今我立白
 りて戦ふ。得手向いもをば。あへなく撃れり。ちり
 ちり。先註例の辭あへば。其釋言ふ
 ちり。いが説多し。勿惑ハとれり。

十有一月癸亥朔己巳皇師大舉將攻礮城彦云云先
 是皇軍攻必取戰必勝而介曾之士不無疲弊故聊為
 御謠以慰將卒之心焉謠曰
 此大御歌ハ。遵狩の時。御贄と待て。例の戯れ終ふ
 ちり。と。語ふ括て。文ハ作れる也。

多ク奈梅互伊那瑳能椰摩能虛能莽由毛易喻者摩毛
 羅毗多介倍磨和例破椰隈怒之摩途等利宇介譬餓
 等茂伊莽輪開珥虛祢
 ○多ク奈梅互ハ。楯並而也。楯と多クと云ハ。縮酒船
 伊ナサカフナ

竹を^{タケ}下へ連^ツけ^ルとき^ニは運^ビひ也。次^ニては^シほ^シき^キ。
楯^{タテ}と並^ニへ進^ミて射^イち^ルと云^フ也。傳^ハふ^カ下^ノ多^ク分^カ
けて^ハ心^ヲ以^テし^テ○伊^イ那^ナ瑤^サ能^ノ柳^ヤ摩^マ能^ノ大^オ和^ワ志^シ云^フ伊^イ那^ナ
佐^サ山^シ宇^ウ陀^ダ郡^ノ在^リ山^ノ路^ノ村^ニ上^ニ方^ニ一^ノ名^ノ山^ノ路^ノ山^ノと^テ此^ニ御^ノ歌^ノ
を^シ引^キて○虚^コ能^ノ器^ノ由^ユ毛^モハ^ニ從^ユ樹^ノ間^ノを^シて其^ノ從^ユハ^ニ於^テふ
通^スれ^ハ木^ノ間^ノを^シと云^フ也。萬^{マン}葉^ヤに^テ霍^{カク}公^{コウ}鳥^ニ從^ユ此^ニ鳴^ナ渡^ダ
と^シみ^ルと^シ此^ニ鳴^ナ渡^ダふ^ト從^ユ此^ニ他^ニへ^ト云^フに^テ水^ノ
田^タ兒^ニ之^ノ浦^ノ從^ユと^シあ^リと^シ田^タ兒^ノ之^ノ浦^ノを^シな^ルと^シ同^シ
と^シ諸^シ抄^ノた^テら^レへ^ト○易^イ喻^ユ者^ノ摩^マ毛^モ羅^ラ毗^ヒハ^ニ行^キ候^フと^シ易^イ
を^シ發^ハ語^ノ羅^ラ毗^ヒハ^ニ理^リの^ノ延^ヒと^シ也^トと^シて^テ摩^マ毛^モ羅^ラ毗^ヒハ^ニ本^ノ語^ノハ^ニ

目^メ覓^ミふ^ト目^メ以^テ而^シ覓^ミ求^ム方^ヲより^テ候^フふ^トと^シ云^フ又^モ守^ル
ふ^ト衛^ヱふ^トも^ト轉^ルし^ト云^フと^シれ^ハ佐^サ毛^モ羅^ラ布^フと^シ云^フも^ト真^マ守^ル
候^フふ^ト方^ヲより^テ麻^マ毛^モ流^ルと^シ云^フも^ト同^シ此^ニハ^ニ萬^{マン}葉^ヤ七^シふ^ト
候^フふ^トの^ノ海^ノ沿^ノか^レし^トみ^ト風^{カゼ}守^ル年^{ネン}者^ノ也^ト將^{マカ}經^ケ去^クと^シあ^リ
る^カ風^{カゼ}候^フの^ノ如^シく^テ敵^ノの^ノ形^ノ状^ノと^シ考^ヘ候^フふ^トを^シ云^フ上^ニり^テの^ノ
ほ^シき^キ也^ト伊^イ那^ナ瑤^サ山^ノ木^ノ間^ノを^シも^ト彼^カ行^キ此^ニ行^キして^テ候^フ
此^ニ楯^{タテ}交^ハバ^ニ下^ニへ^テり^テ也^ト○多^タく^テ介^カ倍^ハ磨^バハ^ニ此^ニハ^ニ楯^{タテ}
と^シ交^ハし^テ候^フれ^ハバ^ニ云^フ也^ト凡^タて^テ多^ク介^カ倍^ハ磨^バと^シ云^フ語^ノハ^ニ楯^{タテ}
を^シ本^ノふ^ト即^チ楯^ノ合^ノの^ノ義^ヲを^シ今^ノ世^ノの^ノ言^ハふ^トも^ト楯^ノ向^ノ楯^ノ
衝^ツを^シて^テ云^フる^ト其^ノの^ノあ^リに^テ合^セて^テ知^ラし^テて^テ其^ノの^ノ是^ト

稜威言別

二之廿二

戦、字ふ當て。撃合斬結ぶ方ふも云なれど。此ハ多
楯を衝せし。賊を候ハしり。路ハしのみなり。

又按ふ。此ハ衝、所の楯ふをちりて。彼山と宮城、楯
と云しやうに。其処の木と。楯と詔ひしも知ハ
うらに。又東の防人。己醜御楯と云みしやうに。
皇軍等と詔ふにもあらん。先註等の中に多
介比ハ。敵合の義也と云。此處ふして。戦ハ疲と云
ふ如くに云るハ。前文は拘泥。此大御哥と御殿と
志らぬ俗也。此御時。天壓神と稱へて。敵も者
と云し。あしりし。道別み精く弁へたる。あし
○和例破。椰隈怒ハ。吾者飢如ふて。椰ハ嘆息の聲也。
和例ハ。天皇此吾ふて。軍士も。其中にこそあり。飢の

美宇と省ける。下の聖徳太子御歌。伊比。慧豆と有
おれし。○之摩途等利ハ。嶋津鳥をり。私記云。欲讀
鷄之發語也。と云。奥鳥鴨と云。類也。○守介。譬。餓
等。茂ハ。鷄養之部なり。本文ハ。臣是。芭苴擔之子。此則
阿太養鷄部始祖也。是也。天皇倭入。遷幸あり
し。より。日ハ。御芭苴獻子。はれハ。然。う名ふ。負。こ。一也。
此日。其饌の遅れ。々々。ふ。鮎。て。如此ハ。戯れ。と。せ。路。ハ
なり。

○一首の。今日吾山中。偏邊。ま。よく。遵。狩。ん
伊那。瑤山。の。繁。き。木。間。ふ。し。も。彼。往。此。往。候。ら。ん

巡日しほに楯交もあつらん如く我も人も飢
了。實ハ此意なりと。勵く云。日。供奉る芭直擔等よ。
今日をちや遅き速く御饌獻ととなり。

記曰。然後將擊登美毘古之時。歌音。大御歌ハ御兄五

登美毘古ハ長髓彦カ亦名也。此大御歌ハ御兄五
瀬命の御厄子と。慨々所念行て如此のりしは

美都斯久米能古良賀加岐母登尔宇惠志波子加美久
美都斯久米能古良賀加岐母登尔宇惠志波子加美久
美都斯久米能古良賀加岐母登尔宇惠志波子加美久
美都斯久米能古良賀加岐母登尔宇惠志波子加美久

知比々久和禮波和須禮受宇知互斯夜麻年
知比々久和禮波和須禮受宇知互斯夜麻年
知比々久和禮波和須禮受宇知互斯夜麻年
知比々久和禮波和須禮受宇知互斯夜麻年

○美都美都斯久米能古良賀ハ真稜威真稜威しき
組之子等之也。上注。○阿波布爾波ハ於粟生者なり
布ハ生の上畧にて常ふ芝生蓬生なり云。生是あり

神代紀ハ粟田豆田萬葉ハ芋原なりありハ其生
地ハ當て書るにて言のまふは非也。此ハ次句ハ加
岐母登とありに合せて思ふ。来米部が住し屋敷

の内ハ粟生なり。大和國高市郡ハ今ハ久米村
あり。○賀美良比登母登ハ真一莖欵小莖一莖欵
和名抄ハ薙和名於保美良莖古美良とあり。萬葉十

四ふ久君美良と有りる也。莖莖と云う。今雨良と云
ハ。美良の搏也。解小。蜀椒也。と云るハ。○曾泥賀母登
ハ。其根之莖なり。莖ハ根拔ふ。採取物なれば。かく云
了。此句云。髓之許と云。韻あり。○曾泥米都那藝豆也。
其根芽繫而ふて。芽ハ根より生出る。若莖也。繫てハ。
齊明紀云。所射とと繫ぶ川邊の。とあると同トく。
逃ても適る。追認て。盡く撃果してんと也。今も獵
人の言ふ。打留。し。猪鹿の。走れたると。二三日繫き
ておく。と云つ。と。此句に。髓之妻子從屬まふり。と
云。韻きあり。○宇知互斯夜麻牟。上注。此歌。紀記共ふ。

此、句まごと。一首とて。又歌曰とて。次と別歌とせ
る。此とて。粟生と垣下と。小遊と蜀椒と。對し
る。本一首の歌と。二段云。調心たるあり。下の景行
紀なり。波辞。和豫辞云。歌も。紀ふハ一首なり。と。記ハ
三首とせり。類。猶あり。其等ハ雅樂家ふて。返歌。舉歌
等に分て。謡。し。故ふ。わ。分れ。今此歌ハ。本末に
分て。謡ひし。故ふ。二首とハ。わ。来し也。○加岐母登
爾ハ。於垣下也。○宇惠志波士加美ハ。所殖蜀椒なり。
和名抄云。蜀椒。和名奈流波。自加美とあり。是也。ま
生薑。久礼乃波之加美。字鏡云。干薑。久礼乃波。自加美。

とろろろれハ此等々はふ吳國より渡したるふて
 そ、それハ素^{モト}の蜀椒ハ木になら物なれば後其
 後ハ奈流^{ナリ}と云て分^テるらん名義も辛^{ヒキ}と疼^ハて齒^ハの
 感^{シカ}むと蜀椒ふろそく叶^レれ。○久^ク知^チ比^ヒ久^ク
 口疼^{クチヒ}ふて蜀椒^{ハヒカミ}の實^ハ比^ヒ食^レて後^ハで口の疼^ヒく如^クに
 彼^{シタ}慨^{シタ}ふれ止^ミしと也^也此^ハ御^{タト}比^ト喻^ハ奇^キとまをんべし
 ○和^ワ礼^レ波^ハ和^ワ須^ス礼^レ受^ズハ我^ワ者^ハ不^レ忘^シなり
 ○一篇^ハの大意^ハ来^レ目^メ部^ラ等^ラが住^メる采^メ地^ノ粟^ス生^フを見
 れハ^{カミ}一^{ヒト}莖^{モト}生^ヒらん彼^{チヤ}不^キ恭^{ナキ}長^チ髓^ト此^ハ物^ハふ比^ヒ其^ガ
 根^{オヒ}も生^ヒらん芽^メも共^ニに漏^ラらば繫^{ツナ}認^{トメ}て盡^ク伐^キ果^トし

てん^ハ段^ハ其^{カキ}垣^{モト}下^ニに蜀^{ハヒ}椒^{カミ}植^ケて此^ハ實^ヲを食^クへば後^ハま
 で口の疼^ヒ出^クとく前^キの慨^{ウレタ}み今^ハに忘^ラれれば^ハハし繫^{ツナ}
 おくとも終^ヒふ必^ズに伐^キ果^シてん^ハ段^ニやなり

此^ハ歌^ハ紀^ハ記^ハ互^ニふ異^ニ同^{ナリ}あり紀^ハ三^ハ四^ハ句^ハ介^{カキ}者^{モト}茂^ト等^ニ珥^ニ
 阿^ア波^ハ赴^フ珥^ニ波^ハとある此^ハハ次^ニに介^{カキ}者^{モト}茂^ト等^ニ珥^ニ
 破^ハ珥^ニ介^{カキ}とある句^ハよる搏^{ウツ}て来^シ也^也十三^ハ句^ハ和^ワ例^レ
 破^ハ流^ハ掄^ハ例^ハ孺^ハとあるハ然^ルるべし記^ハふ和^ワ須^ス礼^レ志^ト
 ありハ舞^ハ人^ノの察^シして云^フ詞^ハとも云^フべ多^クれども紀
 ふ依^テて改^メつ

紀^ハ左^ニ云^フ凡^テ諸^ノ御^ノ謠^ヲ皆^ク謂^フ来^メ目^メ歌^ト此^ハ的^ハ取^テ歌^ヲ者^ヲ而^{シテ}名^ヲ之^{ナリ}也^也
 古^ハへ来^レ目^メ歌^ハ来^レ目^メ舞^トと云^フ武^ヲ樂^ノ名^ニにて此^ハ天
 皇^ノの軍^ヲ旅^ノの間^ニ王^ノ臣^ノ歌^トを儻^ニふ作^リて謠^ハ舞^ハしと云^フ

其ハ初國所治し靈徳と永く忘れしむじ又武と
進まきりんとてやうりなれば追くふ作る人た
るも多うりしやと。

○ 記云。求為大后之美人時云云。於是七媛女遊行於高
佐士野伊須氣余理比賣在其の中爾大久米命見其伊
須氣余理比賣而以歌白於天皇曰。

伊須氣余理比賣ハ大三輪神御女大久米命ハ即
道臣命の稱号也。記傳ふ別人とししきのみし
きいにかゆがてて此段ハ一日天皇行幸ありしに
高佐士野媛女等行遇奉りし道臣命御徒より侍
るが此人本りて神女と見知り居しふ其とハ白
き神御子此中に在り見分て后ふ召給へ御目違

夜麻登能多加佐士怒表那由久表登賣母多禮表
志摩加牟
○ 初二句ハ倭之高佐士野乎也。輿地通志云。此野在
ト市郡南浦村と云。○ 那々由久ハ七人行ふて行
ハ来也。七人ハ大數なりし。○ 表登賣母ハ媛女
等なり。表登賣ハ凡五七歳より十七八歳其餘ふ
凡未人妻とやうに娘子と云。名義ハ古今鬢髮考と
云物ふ委く世足。○ 多礼表志摩加牟ハ誰乎將纏ふ
て志ハ助辞何是とら纏寝給ハんと也。息と纏との

可笑うりきんてててかけく歌也
○ 初二句ハ倭之高佐士野乎也。輿地通志云。此野在
ト市郡南浦村と云。○ 那々由久ハ七人行ふて行
ハ来也。七人ハ大數なりし。○ 表登賣母ハ媛女
等なり。表登賣ハ凡五七歳より十七八歳其餘ふ
凡未人妻とやうに娘子と云。名義ハ古今鬢髮考と
云物ふ委く世足。○ 多礼表志摩加牟ハ誰乎將纏ふ
て志ハ助辞何是とら纏寝給ハんと也。息と纏との

ハ。照有間ふ。曇ると云。又咲と名し同じ。加都散ふ
りりやうに云ハ。咲と散と。一雙ふ合せり
ふて。咲ふやれハ。片散ふりりと云。又加都越
て別も行う逢坂ハ。とやうに云ハ。別と逢と。一
雙ふ合せたりにて。別も行ふ。片逢と云名と。合人
憑にてと云也。斯有ハ。加都賀都ハ。其半分の又半分
分と云言也。今又此。加都賀都ハ。其半分の又半分
と片片と。又いくつにも。碎き分りる心げへ以て。
甚小細なるを云。其よ玉物。此假名もふも。終り
なり。ゆにを移して。今の俚言に。一寸と云はる
云。萬葉四ふ玉。ぬしに玉をさげけり。勝且毛枕
と吾者り。とふりぬ。とあるも。三句と。初句よ
りけて。只一本。本人玉と授けて。今夜ハ云云。な
ど。詩しけり。ゆに。此の也。諸抄ハ。其本
義を悟り。ゆに。其。釈。皆。ゆに。けり。

○伊夜佐岐陀氏流ハ最先立有なり。伊夜と云に二
つあり。一つハ萬葉に。彌益なと書。顯宗紀ハ。轉とも
書て。ゆに。の也。今一つハ。記。上卷ハ。最後と書。此
前文に。立於最前と書て。此等ハ。最一の也。此。最ハ。
伊知と云に通て。既ふ出り。伊知佐加紀ハ。最榮樹
の義。伊知婆夜岐ハ。最速の義。伊知志呂岐ハ。最白の
義也。俗言に。最前。最前。最前。後を云。是ふ。今此句
ハ。最前。立ると云也。○延表斯麻加牟ハ。可美
乎。將纏ふて。斯ハ。助辞也。延ハ。好吉等。此通音ふて。紀
ハ。可美。可愛。善吉。と書るに同じ。今世の言にて。い

其、美好のを、纏れんと云也。下、輕、太子、御歌ふ。
宇流、波斯、登、佐、匠、斯、佐、匠、互、婆、とあるハ、愛、姉、妹、と
云云、萬、葉、十、四、ふ、曾、能、可、奈、之、伎、乎、外、ふ、立、免、や、も、
ま、可、奈、之、伎、我、駒、ハ、た、く、と、も、な、と、云、る、も、悲、愛、夫
と云、く、や、り、
○一首の、ま、ハ、汝、ハ、然、う、い、へ、ど、ま、は、ふ、ろ、ろ、み、や、及
と、ん、只、片、う、や、ろ、て、ふ、ふ、其、と、あ、る、し、彼、最、ち、前、を、
可、美、の、と、朕、ハ、鍾、寐、ん、と、也、
爾、片、哥、ハ、か、ア、う、の、間、答、
ふ、用、る、と、の、と、え、り、

爾天久米命以天皇之命詔其伊須氣余理比賣之時

見其大久米命黥利目而思奇歌曰

按ふ上、件、の、大、久、米、命、ハ、久、米、下、に、主、字、と、漏、
せ、る、や、り、へ、し、黥、利、目、の、う、ハ、歌、ふ、云、へ、し、

阿米都々知杼理麻斯登々那杼佐祁流斗米

○阿米都々ハ、天地、ふ、て、天地、の、間、ふ、て、の、を、也、萬、葉、
十、二、ふ、天、地、ふ、小、不、至、大、夫、跡、や、云、る、に、准、ふ、後、し、
○知、杼、理、麻、斯、登、々、ハ、子、人、勝、人、を、云、ふ、て、子、人、ふ、勝、
人、や、あ、り、了、の、を、也、人、を、登、と、の、み、云、ハ、旅、人、東、人、な、
や、れ、如、し、○那、杼、佐、祁、流、斗、米、ハ、何、黥、利、目、や、り、此、黥、
利、目、と、云、く、や、と、熟、考、る、ふ、道、臣、命、の、御、眼、の、然、ら、大

く裂^サたるふもあ^レば。又故^{コト}ふ黥^{サキ}跡^{アト}に^レもあ^レば。
 既^スふ然^カう名^ナけ^ルる具^{ツグ}の有^アし^テ。それ^レも前^マ文^ブ。
 ふも打^ウつけ^ル。黥^{サキ}利^リ目^メと^モえ^ルべ^シ。其^ノハ胃^イの面^{オモ}。
 頬^ホふ。い^ハう^ハし^キ眼^マと^モ著^ルる^レ有^クん。
 いろくお^ソろ^シげ^ル。彼^ノ鞆^{ツグ}を^レ如^ク。上^ノ古^ノハ敵^{トシ}。
 と^モあ^ル。其^ノ遺^イ風^{フウ}を^レへ^シ。諸^ノ抄^ノふ^ル。黥^{サキ}と^モ。
 云^フる^レ。此^ノ御^ノ時^ノ皇^ノ朝^ノふ有^ルべ^シもあ^レば。似^シ。
 る^レの有^クん^トも然^カる^レ穢^{ケガレ}し^キも似^シ。爲^ルん^ハま^シ。
 め^ルら^ハ。此^ノ外^ノ此^ノ御^ノ歌^ノの先^ノ註^ノと^モに^レ。い^ハそ^レれ^ハ。
 説^ノのあ^ルる^レハ。そ^レや^ク鐘^ノ響^ノに^レ弁^ノへ^レば。合^フは^レべ^シ。

し
 ○一^ノ首^ノの^レを^レハ。天^ノ地^ノの間^ノふ^レ。千^ノ人^ノふ^レも勝^ルる^レ人^トあり^シ。
 て。何^トと^モ世^ノの並^ビく^レの軍^ノ士^ノのや^ウに。裂^{サキ}利^リ目^メハ著^ルる^レ。
 る^レぞ。然^カせ^レび^トも。其^ノ勇^ノ威^ノハ。並^ビふ^レ人^トも^モき^スもの^ヲや^ラ。
 ち^ハ也。此^ノ詞^ノふ^レも。大^ノ久^ノ米^ノ命^ノと^モえ^ルハ。大^ノ伴^ノ道^ノ臣^ノ命^ノを^レ。
 べ^ハ。合^フは^レる^レき^スら^シ。

爾^ニ大^ノ久^ノ米^ノ命^ノ答^フ歌^ノ曰^ク。
 表^ヲ登^ト賣^メ爾^ニ多^ク陀^ニ爾^ニ阿^ハ波^ハ牟^ト登^ト和^ワ賀^ガ佐^サ祁^ケ流^ル斗^ト目^メ。
 ○表^ヲ登^ト賣^メ爾^ニハ。媛^ヲ女^メ尔^ニ以^テ。即^チ伊^イ須^ス氣^ケ余^ヨ理^リ比^ヒ賣^メを^レ指^ス。

て申せり。○多々爾阿波牟登ハ直将逢等而と云を
ふて直ハ的の面と云。此ハ見漏とトとてのをかりと
て登と云て登而のをかり。古語の常にて萬葉にも
多うり。○和賀佐祁流斗目此ハ殊更ふ目と大きく
くふるをと云をに取らせり也。

○一首意ハ嬢子に紛れなく行逢んとて故ふ大寺
り裂利目ハ著たるにるをりれとかり。

門人某ハ軍學者かり其人云々にも刑の點なり
は斗目と云へきあらず敵と感れ為の具なるり
る利目と云也。中古以来の面頬ふも怒面と云
ありて目甚大きかり。大和法隆寺什物ふ古面多

うり。其中ふも大眼面と云あり。此等上古の遺風
なり。云々。此外えりるをりれど此ハ得記と云

故其嬢子白之仕奉也。於是其伊須氣余理比賣命之

家在狭井河之上。天皇幸行其伊須氣余理比賣之許

一宿御寢坐也。後其伊須氣余理比賣參入宮内之時

天皇御歌曰

阿波良能志祁去岐袁夜爾須賀多々美伊夜佐夜斯

岐互和賀布多理泥斯

○阿波良能ハ葦原之かり。上代ふけ凡て海川の
邊ハ葦多うりけれハ此狭井川の家此邊也。然る有

ほろく。狭井河ハ。神名帳云。大和國城上郡。狭井坐オホミツノアラミタマノ
大神荒魂神社とある。此處也。即媛女と産せり。
御魂なる故云。此地云齋祭られしを云く。

是ふ合せて。更に按ふ。上の高佐士野タカサジノも。此近きあり。
了なきべし。くれハ。井イと誤れるに。高狭井野タカサカノ
云てを云く。高と云。其邊ふて。小高き野原の
よし也。云く思ひ出されハ。云く云り。

○志シ去ケ岐キ表ヤ夜ニ雨ニ。志シ去ケ岐キ。濕シ去ケ岐キ。繁シ去ケ岐キ。濁シ去ケ岐キ。
音の假字と書べくれハ也。去ケ岐キハ深フカキの上ノ畧カ。
音通へり。濃コふて。俚言に志都去伊那都去伊シツコイナツコイ。
と云も同じ。深濃コの音便也。表夜ハ小屋也。水邊の葦アシ
去伊も。深濃コの音便也。表夜ハ小屋也。水邊の葦

の中ちち。表れ。云々。わりのやるべし。

此句抄ふ。繁シの志シと。去ケ岐キの志シを説カに傳ハに。醜シ。
きふて。其シと志シ去ケ岐キと云也。とあれど。志シ去ケ岐キと志シ。
去ケ岐キと云。音上下違ひて。い。醜シと志シ去ケ岐キと。
云るも。すに。又葦原之の句。りの連きも。
因コ。

○須賀多スガタ美ミハ。菅スガ疊タミ也。此句ふ合せても。醜シハ。似ニ付ヘ。
此。比賣命ハ。神御子カミミコをれハ。と。け。う。ち。る。醜シ屋ヤふ。
は。住イ。夜ニ。斯シ。岐キ。氏シ。ハ。彌イ。真マ。彌イ。敷シ。而シテ。ち。り。彼カ。濕シ。氣ケ。の。深フカ。き。河邊カガ。の。
家カ。を。れ。ハ。天。皇。の。御。寢。坐。ふ。因コ。て。彌イ。之。上。に。疊タミと敷シ。

るなり。抄傳等に、弥清敷也と云ふ。今思ふに、清而敷
と云ふべし。清敷と云ふへうなり。○和賀布多理泥
斯ハ、朕二人寢しふて、斯下餘情あり。
○一首の意ハ、一夜葦原の濕深き小屋に、菅疊と弥
之上糸敷重ねて、希見く旅宿せしむりありしが、其
が縁とけりて、如此入内し給ふが、うろくぼしと也。
傳ふ、斯ハ和賀の賀と結給ふ也と云ふハ、非也。
○
然而阿禮坐之御子名、日子八井命、次神八井耳命、次
神沼河耳命、故天皇崩後、其庶兄當藝志美々命、娶其

嫡后伊須氣余理比賣之時、將殺其三弟而謀之間、其
御祖伊須氣余理比賣、患苦而以歌令知其御子等、歌
曰、
當藝志美々命ハ、既く日向ふ坐て、兄ふハ生れ
大后、御子なりむれバ、御位所知り能は、故然る企
もありし也、此他の予ハ、道別ふ出ツ。
佐賀波用久毛多知和多理、宇泥備夜麻、許能波佐夜
藝奴加是布加牟登須。
○佐賀波用ハ、從狹井河ふて、是も於狹井河の
なり、從と約て、用とも、由とも云る也、今ハ不知人も
ありし、其と又於のさふ云る、既ふ云つ。○久毛多知

和多理之雲起亘なり。此時未第御子等ハ皇后本郷
 狭井河邊に御坐る。○宇泥備夜麻ハ畝火山也。當
 藝志耳玉ハ本より其地ふ住る。畝火山ハ高市郡
 狭井ハ城上郡也。○許能波佐夜藝奴ハ木葉喧擾ぬ
 ふて此句ハ軍兵と聚てとやうく比喻也。記ふ葦原
 之水穂國者伊多夕佐夜藝豆有祁理萬葉十ふ葦邊
 在萩之葉左夜藝秋風之。なぐりり是也。既ス清と
 ○加是布加牟登須ハ欲風吹ふて此句ハ押寄て弒
 むとす。譬なり。次歌と合て畝火山ハ隱て事謀
 ○一首の意ハ狭井河の方ふ雲の起渡て畝火山の

木葉どもの喧擾とも風の吹發んとて。如此云と
 當藝志耳軍士と起て狭井河ふ亘汝等と圍て殺
 むとす。論をとり。此御歌諸抄共ハ狭井河の方
 をに説く。從ハ自他ふ亘る言なれども此前後凡
 て終の意にのみ用ひ又哥の意も入る。以將殺
 云云。まゝ入殺云云とある文に叶ひがし。

又歌曰
 宇泥備夜麻比流波久毛登葦由布佐禮波加是布加牟
 登曾許能波佐夜牙流
 ○比流波久毛登葦ハ晝ハ雲と興に静に潛み居而
 の意也。久毛と云に隱の意あり。久毛久万許毛流

本皆同語なれば也。○由布佐禮婆ハ夕べにをれむ
 かり。これどふし成者の約とす。あはあはに去と
 きて。来とやふも。古くハ用へて。故夕ふ成とや。夕
 去良婆とも云。春ふ成とや。春去奴礼婆とも云。又
 此去と来と重ねて。春去来者。秋去来者など云ふ
 み。此ハ今世ふ去と云ハ。此より彼へ去を。古ふ
 去と云ハ。彼より此へ去来よしにて。到と云も。往と
 云も。自他ふ相通ハ。云々。同例なり。此語
 昔もやうての人ハ。心得違ふれば。既く山彦冊
 子にも弁へ。萬葉釋ふも。其例とあり。引て。ややあ

見るとえべし。○加是布加牟登曾ハ將風吹とぞ也。
 此二句ハ夜ふなれば。起さうらて。汝等と覗ふぞと
 云。たうんわり。○許能波佐夜牙流ハ。木葉喧擾ふて。
 人数を聚て。ちやらくたうんあり。
 ○一首の意ハ。大宮近き畝火山ふ。晝の間静まり居
 る雲ハ。夜ふなれば。風吹んとて。木葉の鳴。ちやえく
 かとりのて。當藝志耳が。晝の間ハ。大宮あり。りにと
 るげなく。忍び居て。夜ふなれば。汝等を殺しまう
 むと。謀つぞと。舍。あふかり。かくて左文に。
 於是其御子聞知而云云。入殺當藝志美々とあり。

御母命他山世んすと懼て。如此物ふ譬へて。賦贈
 於ひるに皇子うらうらと聞知坐て。危き難を免
 れる世路ひしハ。歌の徳と云べし。とるはて文
 字無うりしせに。いかにして知らせらるる
 と云に。下仁徳御卷ふ。口持臣が傳へたるやう
 密使ふ會て。せらせらひしなり。

○瑞籬宮、崇神朝五首 紀五首記一首其
 中同歌在一首

紀曰八年夏四月庚子朔乙卯以高橋邑人活日為大
 神之掌酒云云冬十二月丙申朔乙卯天皇以大田
 根子令祭大神是日活日舉神酒獻天皇仍歌之曰
 活日ハ哥語ふ因て後よ呼し名也大田根子命
 は三輪大物主神活玉依媛女通坐て生れり

御子也。即此御時大神御告ふ依て此人と覺出て
 三輪神主と定て大神と令齋。此子委く本文ふ
 出て此御社ふ酒掌と置る。歌ふ就て此に
 始て出れり。自此以前ふ既又ありし。本文の
 釋みしに

許能弥枳破和餓弥枳那羅孺椰磨等那殊於朋望能農
 之能介弥之弥枳伊句臂佐伊句臂佐
 ○許能弥枳破和餓弥枳那羅孺ハ此御酒者非吾御
 酒ふて吾醸て獻る御酒ふを非ぞと神ふ委ねて白
 せり。下神功朝皇太后御歌ふも虚能弥企破わ
 か御酒なるはのうみとこふいます。いと

酒れ名也と云るまいう。假令古への酒ハ糟混な
 り多しとも名の名ハ然らば。美山美空なる
 美。積ハ白酒黒酒等の積也。是酒の本語ふ。食ふ
 分ちたる言とこそ聞えし。萬葉ニハ御食向木
 之宮乎。御食向酒と云ふ。信ふ物也。食の變
 化言も食此轉用するは。是と佐氣とも云。佐氣
 け。汁食。佐流ハ。須と約れる。の義也。祈年祭祝詞ハ
 ハ東總能伊加志穂尔皇神等能依左志奉者千穎八

百穎尔奉置氏。懸閉高知。懸腹滿雙互。汁尔母穎尔母
 稱。詩竟奉年云。込。此外多と見とある。此汁ハ酒と云
 穎ハ食と云ると以てあるべし。
 世ふ此。弥積の積と延て。久志といひ。又延て。久須
 理と云。藥ハ本酒の名也。や。觸したる。似て
 非。訶志比。官。段。皇后御歌の久志能加美。條。弁。へ
 け。へし。又萬葉考記傳等ハ。酒のふと。是と飲ハ。心
 の榮ゆる故。佐氣と云。佐氣ハ。榮の義也。と云る
 も。非。り。佐氣の氣と。積。ふ。轉。して。酒。と。常。ふ。積。と
 云。と。榮。ゆる。と。積。との。み。え。言。と。云。ん。や。
 此ハ。或。説。ふ。食。と。氣。と。云。ハ。生。る。の。上。下。畧。然。と。云
 了。也。同。日。の。説。を。う。し。

○椰磨等那殊ハ日本作り記云於是大國主神愁
而告吾獨何能得作此國孰神與吾能相作此國耶是
時有光海依來之神其神言能治我前者吾能共與相
作成云云とある是は大物主神也倭坐也と云○於
朋望能農之能介泐之泐泐ハ大物主之釀御酒なり
大物主ハ右文の續ハ答言吾者伊都岐奉于倭之青
垣東山上此者坐御諸山上神也舊事本紀云是故隨
神願奉齋於青垣三諸山即宮使就而居此大三輪
大神とも是也大國主の分身の神坐云道別
ふ委く出ツと云此ハ三輪ふてのふなればと云り

もかく申いへきこのなづ此大物主と称ハ御名
の最重く坐所以に云あり出雲國造神賀詞云乃大
穴持命乃申給久皇御孫命乃靜坐牟大倭國止申天
己命和魂乎八咫鏡尔取託天倭大物主櫛玉命登
名乎称天大美和乃神奈倫尔坐云云皇御孫命能近
守神登貢置天云云此倭大物主と云即倭國尔生
出る物實の主れ義にして皇御孫命尔朝御饌夕御
饌の御物と貢て大御壽と幸へ給ふと云櫛玉
之奇懸魂ふ美酒鬼のよしなり記傳ハ大物主ハ
十萬神とりん主ハ其首長と云云と云く

思ハどウー也。奇懸魂ふも合ハバ。○伊句臂佐伊句
 臂佐ハ。樂久樂久ふて。彼奇懸魂神の獻了れふ美酒
 なれハ。樂久しく遠御食の長御食。聞しりせと也。
 傳ふも。解にも。祝て樂久と云ん者。つゝ後世乃
 語也と云。又神樂哥の拍子詞ふ依て。此も自己
 名と白して。佐ア佐アと勸奉る也と云。心得か
 し。あまのの中ハ。後世ふ似るも。なとう無
 らぶらん。上哥に。助に奉ね。垣下に殖しはしうみ
 下哥ふ。堅く仕る。かき貝に足ふむ。たうく。なう
 云る類いも。今の俚言に似るも。にうけりや。又己
 が名と白してと云る者。此活日と。此哥に依て。負
 る名と云るを。えうと。ひや。又神樂のちや
 と引てみて。勸むるを。とせ。も強うや。うし

○一首のまハ。此獻了御酒。掌酒の吾釀了酒
 をあはれ。日本國を修理成て獻了る。うへに。長き代
 まう。大御身の守護神と云ん。うけり。大饌主奇
 懸魂神の獻了れ。御酒なれハ。樂久しく御壽幸
 遠御食の長御饌と。聞しり。ちをせと。ちり。

○如此歌之宴于神宮即宴竟之時諸大夫等歌之曰
 神宮ハ。即三輪大神宮也。諸大夫。陪從の卿等。ちり。
 宇磨佐開。源和能等能。渡能阿佐妬珥毛伊第豆由介那
 源和能等能渡塙。

○宇磨佐開ハ美酒ウマサケなり。源和ミワとけくろを其説多
ふ。精サカヅカナく弁ウマサケへたるが如し。此續けハ右の如く。此社ミヤふ
掌酒サカヅカナを置カれて其美酒ウマサケと即大物主神オホモノヌカミより所賜タマヒて聞
飲御心ノミふて美酒ウマサケ三輪ミワとを連ツけくろほごあり。これ
ハ此二首フタヒトが此連ツけの物モノみええくろ始祖ハジメノよりして是
より後ノチと皆此歌ウタふなり。又此三輪ミワ
社ミヤと崇ホトて三諸ミヤとも神奈備カミナヒとも祢ミ比ヒの就ツて萬葉マンヤク々
とけり。味酒ウマサケ三諸ミヤとも神奈備カミナヒとも連ツけくろ其ミ皆
三輪ミワとけくろくと同ナをいして別義ワカあるはけり。

其中ウチノに味酒ウマサケ乎ヤとそんたるもある也。彼御佩刀ミハカシ
乎ヤ。劔池ツルギイシ之ノと置カるなり。乎ヤハ与ヨのまなれハ
味酒ウマサケと三輪ミワと呼ヒ出デくろなり。猶此掌酒サカヅカナ絶ツて後ノチも三
輪ミワハ世ヨに酒サケふ名ナある處トコロなり。かの書シヨに云イハるを
名ナへし。○源和ミワ能ノ等ト能ノ渡ワタ能ノハ三輪殿戸ミワノドノ之ノふて神宮
の殿戸ミヤノドノなり。今本イマホン渡ワタ字ジと脱ヌケせり。古本コホンと以モて補ホへし。
記キ仁徳ニトク段ダンふ前殿戸マヘノドノ後殿戸ノチノドノ殿戸ミヤノドノ之ノ闕クセツ上ノなり。あ
れを戸ドもど軽カし。萬葉マンヤク十八ハチジウふ奴ヌ之ノ能ノ等ト能ノ度タク尔ニとあ
るも同じ。大方オホカタハ出デ入イリみけり。云イハる。○阿佐アサ妬ド珥ニ毛モ
之ノ朝戸アサト尔ニ毛モなり。恒トコふ朝戸アサト出デと云イハる。如ナく朝アサふ開ヒく

戸と朝戸とを云なり。記雄畧段ふ。やとを云。わづ大
きとれ阿佐斗余波い。ゆりな。し由布斗余波い。
とくし。い。え。え。萬葉八ふ。係や。きんをれ。ぶ。ま。な
け朝戸將開。○伊第豆由介那ハ。出而將往なり。古語
ふ。年と那と云。今と誰と心得られ。は。こ。を。こ。し。は。
さ。こ。以上二句に。朝戸ふも出て行んと云。今夜
ハ夜を。ぐ。娛。しく。宴。して。明朝ふもな。げ。出。て。帰
んと云。を。け。り。諸注聞。う。げ。○和能等能渡塙。此
冬二句と再び返して。四句へ返れり。こ。の。ま。は。ら。は。ら。
○一首の意ハ。今日の宴に娛しくありぬ。ハ。夜めか

きりハ。ち。ち。を。帰。し。今夜明て。此。三輪の殿戸の。朝戸
遣ふもな。げ。は。其時ハ。る。う。う。人。其。三輪の殿戸を。ば。
と。り。ふ。ち。り。

於是天皇歌之曰。

上乃諸大夫等歌を。い。な。は。せ。み。大御歌なり。
宇磨佐階。和能等能。渡能。由。赴。妬。珥。毛。於。辞。寐。羅。箇。祢。
和能等能渡塙。

○宇磨佐階。和能等能渡能。上註の如し。○由赴妬
珥毛。此句本書ふ。阿佐妬とある也。前歌ふ牽れて。寫

誤れりやうん。壺井義知校合本云。朱以て由赴^{ユフ}二字
 と書そんじり。然^サるべきも也。其故ハ諸大夫等の
 歌ふ夜の限^ミハ飲^ミあうして。朝戸明る時なうびて
 去^ク出^デてを歸らとよりるに。天皇然^シり時と移ん
 恐^{オソ}し。此夕戸限^ミに押開^{オシヒラ}けと詔^ヒて。退出の事を兼^ト
 了^シ。今世の言^{コト}も退出を^ヒ。されハこそ。次^ツ文^ヲふ。即^チ開^キ
 神^{カミ}宮^{ミヤ}門^{カド}而^{シテ}幸^{イデ}行^キ之^ヲと^シ。記^シされ^ルるなれ。此御歌^{ミカ}
 本^ホより阿^ア佐^サ妬^ドなうば。此左文^{サマ}も合^アり。又四句^ヨ於^オ
 辞^シ寐^ヒ羅^ラ箇^カ祢^ネとある。呂言^{ロコト}の少し加^カり。のみふ
 して。何の興^{キョウ}もなく。諸大夫等と。更に同じく詔^ヒふ

べきなうねが今改^カつ。諸抄^{ショウ}凡^ソて解^{トク}あ^ルは。四句^ヨ右^ミふ
 ことゆ^ユし。結句^{キツク}上^ウ注^ツの如^ニし。
 ○一首の意^イハ、汝^ニ等^ラ夜^ヨの限^ミを飲^ミあ^ウして。朝^{アサ}戸^ト明^ミ
 る時^{トキ}を^シて。還^マら^ズと^シり。然^シう時^{トキ}移^シさん^トを。
 神^{カミ}慮^リ加^カり^シ。今^{イマ}此^{コノ}夕^{ユフ}戸^トと共^ニふ押^{オシ}開^ヒきて。皆^{みな}退^ヒ出^デ
 せ^シや^ナり。

記^キ云^ク。大^{オホ}毘^ヒ古^コ命^{ノミコト}。羅^ラ往^キ於^ニ高^{タカ}志^シ國^{クニ}之^ノ時^{トキ}。服^{ヒツ}腰^{ウサ}裳^{カサ}少^シ女^{メノ}立^タ山^ノ
 代^ノ之^ノ幣^ヘ羅^ラ坂^{サカ}而^{シテ}歌^カ曰^ク
 大^{オホ}毘^ヒ古^コ命^{ノミコト}ハ。孝^{コウ}元^{ゲン}天^{テン}皇^{スミミ}皇^{スミミ}子^コ也^{ナリ}。高^{タカ}志^シハ。越^{コシ}也^{ナリ}。腰^{ウサ}裳^{カサ}也^{ナリ}。
 右^{ミダリ}へ禪^{ゼン}も^ト。母^{ハハ}と^シ云^フし。故^ユふ。表^{ウラ}ふ着^キ裳^{カサ}も^ト。分^ワて^ス云^フ。

珠山山中より出づる少女にして裳を着るるが
尋常なりねば。こぞとけりも也。此少女ハ蓋神女
也。天皇於危難を告奉りしを大毘古命道のゆく
て小圃とて馬をうしして奏せり。

古波夜美麻紀伊理毘古波夜美麻紀伊理毘古波夜意
能賀衰奴須美斯勢牟登斯理都斗用伊由岐多賀比
麻幣都斗用伊由岐多賀比宇迦々波久斯良爾登比賣
那曾毘須母美麻紀伊理毘古波夜

○古波夜ハ是者也。波夜ハ倭建命の阿豆麻波
夜と詔るると同く此ハ天皇の御猶豫を深く歎け
るなり。○美麻紀伊理毘古波夜云々天皇尊名を御

間城ハ彦五十瓊殖尊と奉稱と指す也。如此再ハ重
ぬしと云いしく切ふ嘆々也。此歌九言の句

多うるを天皇御名ゆゑに忍て節短ふ唱へりし
美麻紀ふて切ハりし。○意能賀表々ハ己之緒乎
ふて己ハ天皇の己が也。緒ハ命と云。萬葉に息緒と

云るも是也。又魂緒と云語也。此表と詳みえり
常ハ貫く玉緒ふ成てりむハ言も意も相即玉緒紐
似しり。比しと云也。其が本ハ非也。即玉緒紐

緒績芋年緒苔緒ちと云也。屯て續き持て長く不絶
らしむる方より云なれば其本ハ一なり。此句抄
いとしき非也。解も。○奴須美斯勢牟登ハ竊將殺と

なり。奴須年と云。何うにされ。人のゆるさねわざと。
隠して物まると云。人の物を隠して取れ。其の中の
萬葉十一か。心とへまぶぎ。依君は何しうせいらば
了云。と吾將竊食する。山河ふうと伏おきて毛
るあへり年のハとを吾竊舞師。此ハ忍びて。裁奉
んと。謀つと云。斯勢ハ。令死ふて。殺れを云。一巻
沼河日賣歌。下ふ云。○斯理都斗用ハ。自後戸なり。
殿のうしろに戸と云。次と合せて心得へし。○伊由
岐多賀比ハ。伊ハ。發語ふて。行違なり。行違と云。殿の
前後の戶外より。現ハ裁んと。あふと。たると。た。行

ふの致らふよし也。記、筒城、宮、段ふ。故是、口子、臣白。此、
御歌之時參伏前殿戸者。違出後戸參伏後殿戸者。違
出前戸爾爾奮進赴。跪于庭中云云。○麻幣都斗用を
自前也。右、文、心、得へし。此時天皇、御庶兄建波
迹安王。豫て邪心を抱てあるふ。きりしも諸卿等四
方の國々和平の發行おして。人少なると待設然し
も現ひまんと。神をうけしして誰うハあふん。此、天皇
ハ。特ふ皇神を篤く崇めとて賜へれば。か。る危難
と。神顯れて告させ。政らしにくそ。○宇迦々波久斯
良爾登。宇迦々波久ハ。宇迦々布と延て云。と。約。是。是。

斯良爾ハ、不知ニシラチリ、此爾ハ、本ニ不ヌ為セ、不ヌ聞キカヤ、云ニ、奴ヌと
 爾ニ奈行ニの、活ハ轉カルニ、此ニ、萬葉ニ、多クき語ヲナリ、
 登トハ、登ト互テの、ニ知ラぬヲとシと云也、萬葉ニ、鴨
 山ノ之ノ磐根ノ之ノ卷ニ有ル吾乎鴨不知等妹之待ト將ト有ル此等
 同ニ也、○比賣那曾毘須母ハ、姫之遊ヲ為ス也、
 阿ノ能ノ那ノ姫ノ之ノ遊ヲとシハ、女等ノ中ニ遊スも云べキ
 々へ遣ハして、宮中ニ禦キ無クと、論シ孫ノ詞ヲナリ、
 此句ノ記ノ今本ニ無キハ、脱レトナリ、古寫本ニ依
 て補ヒフ、此句ノ無クトス言足ラハズト傳ス、比賣那

曾毘ツ毘ビの、と、結句ノよリの、ほろろとりとれバ、
 てよろしと云る也、延佳ガ言ハ徒ハトトの、所謂負ケ
 としみナリ、○美麻紀伊理毘古波夜、此句ノ初メ二句
 重ねテ、又更ニ結トス、いふ事ノ切ナリ也、
 ○一篇ノ意ハ、是レ也、御真木入日子ヲ也、御真木
 入日子ニヤ、マア、汝命ノ御壽ヲとミス、うみ弒シ奉ラん
 とシ、大宮ニ近ク忍ビて、後戸ニ行キ違ヒ、前戸ニ行キ違ヒ
 て、覘ミぬル、四方ノ國々ヘ、將
 軍ノちヲ出シけル、宮中ニ姫ヲ祢ネ等ノみニ比シ中ニ、御
 坐スが危クふル、御真木入日子ヲヤ、とナリ、



此歌紀ふハ。弥磨紀異利寐胡播椰。飲迺餓鳥塢。志齊務苔農殊末句志羅珥。比賣那素寐殊望。一云於朋耆妬庸利。于介伽卑氏許呂佐務苔須羅句塢志羅珥。比賣那素寐須望。とある此二首も本ハ一首の割て。如此なり。今取合さべくもあらず。

紀云。是後倭迹々日百襲姫命。為大物主神之妻。云云。仍踐大屋。登于御諸山。爰倭迹々姫命仰見。而悔之。急居則箸撞陰而薨。乃葬於大市。故時人号其墓謂箸墓。是墓者日也。人作夜也。神作故運大坂山石造。則自山

至于墓。人民相踵以手迎傳。而運焉。時人歌之曰。

倭迹々日百襲姫命ハ。孝靈天皇皇女也。大物主神の故事ハ。記の活玉依毘賣段。まゝ土佐國風土記云。倭迹々媛皇女云云。故時人稱為三輪村とある類。何と本一根本の分け。大市を大和國城上郡ふて此墓。天武紀云も箸陵と云ふ。其地也。今も著中村と云て御墓也。大道の西行ふ。其大なる冢山ふて存て行囊抄等に云ゆ。今此哥ハ。其作人数のむべしきと云て時人の

飲朋佐介珥。菟藝迺煩例屢。伊辞務邏塢。多誤辞珥固佐摩。固辞介氏務介茂。

稜威言別

二之四十七

○飲^{オホ}朋^{サカ}佐^{カニ}介^ニ珥^ハ。大坂^ヲなり。和名抄^ス。葛上^郡大坂[。]
神名式^ニ。大坂^{山口}神社^ト名^ケ。下の履^中天皇[。]大御
歌^ニ出^ツ。○菟^ツ藝^ヤ廼^ノ煩^ボ例^レ屢^ル。此^句上下^ノの連^キみ^テハ。石
の繼^ツ所^ル登^ルと^云ガ如^クなれど。前^文自^山至^テ墓^ニ人
民^相踵^ツ以^テ手^迎傳^而運^焉と^云る^ニ合^スる^ニ。人^民の
踵^所登^ル其^坂の石^群と^云。古^人ハ取^リし^なる^ニ。○伊
辞^務邏^鳩ハ。石^群乎^ナリ。磐^村とも。五^百箇[。]磐^村とも
云^ル。ふ^同し。此^坂石^の多^うり^ん。○多^タ誤^ゴ辞^シ珥^ニ固^コ佐^サ
摩^ハ手^越尔^越者^ナり。手^越と^云。今^世の言^ハに^もづ^り
とも。も^づり^とも^云え^にて。大^坂より。大^市まで。數^萬

の人^レれ。も^づりに迎^傳て。運^ふと^云。○固^コ辞^シ介^ガ氏^テ
務^ム介^モハ。將^ム越^レ勝^ガう^母ふ^テ。介^カ茂^モハ。後^世の可^カ波^ハの意[。]
なり。も^づり^介豆^ム務^ム都^ツの言^ハれ^活用^也。と^云て。阿^ア開^ヘ年^ム
云^ト同^シう^レハ。運^得ん^うハ。阿^ア開^ヘと^云。云^ハに^云
る^ナり。も^づり^如此^ク云^ル。葛^上郡[。]大^坂より。城^上、
郡[。]大^市と^云。其^行程^の遠^うれ^と。又^其あ^まり^しれ
石^と運^ぶる^レ。容^タ易^ヤう^ぬふ^つき^て云^ルなり。
○一^首の^まハ。世^ニに希^メ見^シき御^墓な^レハ。吾^もく^と助^ス
ふ^来る^人れ。か^くも^あま^り集^ツふ^{もの}う。其^道ハ遠^く。
輒^タう^ぬれ^ど。此[。]八^萬の^人れ。も^づりに^セバ。

